

令和3年度 学校経営の基本方針

たつの市立龍野西中学校 校長 日下 博文

1 校 訓

実践力を養う (自ら考え正しく判断する)
創造力を伸ばす (進歩を求めて自ら努力する)
信頼性を高める (思いやりの心で励まし合う)

2 教育目標 『未来への道を切り開く力を持った生徒の育成』 — 自立する人としてふさわしい心・力・態度の育成 —

3 めざす学校像・生徒像・教師像

☆学校像 ・みんなが生き生きと躍動している学校

☆生徒像 ・主体性が確立され生きる力を持った心豊かな生徒

☆教師像 ・豊かな発想と限りなき情熱、高い倫理観を持ち、活力に富んだ教師

4 指導の重点

(1) 生徒をはじめ、自他の「命」を守るため「新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組み」をチームとしてやり遂げる。

(2) 感染症等の発生により、必ずしもベストな状態で学校の教育活動を行うことが難しい場面もありうる。しかし、どのような状況下でも、生徒を中心に置き、ICTも効果的に活用しながら、教育活動を止めない。

(3) 確かな学力の育成

①主体的に学習に取り組む態度を育成し、確かな学力を身に付けさせる。

②生活実態や学習状況を適切に把握・分析し、改善に向け組織的に取り組む。

③生徒の学力向上に資するための「龍西チャレンジテスト」を導入し、生徒の学習状況を適切に把握、分析する。

(4) 情報活用能力の育成

①生徒の情報活用能力を育成するため、教育活動全体で情報教育に取り組む。

②生徒が手段として日常的に学習や情報収集等でICTを活用できるよう、各教科における学習活動を充実させる。

③情報モラルの指導を徹底するとともに、家庭や関係機関と連携し、生徒の自主的・主体的な活用を促進する。

(5) 協働体制の推進と勤務時間の適正化

①意欲をもって職務に取り組める職場環境づくりを進める。

②全員が協力して、機動的に対応できる組織を構築する。

③心身ともに健康で、子どもと向き合う時間を確保できるよう努める。

④勤務時間の適正化に向け、定時退勤日・ノー部活デーの完全実施等を徹底する。

(6) 特別支援教育

- ①組織(チーム)で取り組む校内支援体制を充実させる。
- ②本人・保護者との合意形成をもとに、ニーズに応じた合理的配慮を提供する。
- ③支援計画・指導計画・連携シートを活用し、入学・進級・進学時の縦の連携を密に行う。(縦の連携)
- ④関係機関との連携を図り、卒業後も切れ目のない支援を受けられるよう、支援体制の充実を図る。(横の連携)

(7) 人権教育

- ①人権感覚を磨き、差別を見抜き差別をしない生徒を育成する。
- ②同和問題に対する理解を深め、差別を解消する学力と実践力を育成する。
- ③道徳等において「生命の尊さ」「困難や逆境に負けない強い心」の大切さに気づかせ道徳的実践意欲と態度を育てる。
- ④研究授業や研修会へ積極的に参加し、職員がより確かな人権感覚や人権意識を身につけ指導力の向上に努める。
- ⑤人権教育推進事業を通して人権感覚を育て、「共に学び・共に生きる喜び」を体得させる。

(8) 道徳教育

- ①教科化についての理解を深め、成長の様子を見取り、意欲向上につながる評価を行う。
- ②「対話」による道徳授業の推進
- ③「生命を尊重する心」「規範意識」「自尊感情」「思いやりの心」の育成
- ④家庭や地域と連携し、道徳の授業公開の推進

(9) 健康教育・安全教育

- ①学校保健を充実し、生涯にわたる健康の基礎を培う。
- ②自らの命を守り抜くために主体的に行動する態度を育成する。
- ③家庭や地域と連携して、学校防災体制の充実を図る。
- ④給食や調理実習を通して、地場産物等生産者への感謝等食育を進める。
- ⑤生活アンケートから、生徒の生活実態を把握し、心身の健康に関する指導を適切に行う。

(10) キャリア教育

- ①キャリア教育の目標を明確にし、全体計画作成・校内の推進体制を整備する。
- ②生徒の個性の伸長に努め、自己実現をめざした進路選択を支援する。
- ③兵庫県版キャリアノート・たつの市キャリアノートを活用し、発達の段階に応じた指導を連携して行う。

(11) 新型コロナウイルス感染症を踏まえた対応

- ①「学校の新しい生活様式一日の流れ」の更なる徹底をはかる。
- ②「感染源をたつ」ため、生徒、職員及びその家族の健康観察を徹底する。
- ③「感染経路を断つ」ため、手洗い、マスクの着用、清掃、消毒の指導を徹底する。
- ④「抵抗力を高める」ため、十分な睡眠、適度な運動、バランスのとれた食事を心がけるよう指導する。
- ⑤「密閉空間」を回避するため、換気を徹底する。
- ⑥「密集する場」を回避するため、可能な限り身体的距離を確保する。
- ⑦「密接場面」を回避するため、マスクの着用、近距離での会話や発声をする場面を避ける。